

令和元年度 第4学年 授業改善推進プラン

文京区立駕籠町小学校

	現在の授業・学力調査等についての分析・検証結果	授業改善に向けての具体的な方策	補充・発展的指導の計画
国語	<ul style="list-style-type: none"> 区学力調査の結果は、平均正答率が約8割であり、おおむね学習内容は理解していると言える。しかし、中でも正答率の低い問題は、「調べた結果の表をもとに文章を書く」が約5割、「言葉の学習でローマ字に関する問題」が約6割の正答率だった。 	<ul style="list-style-type: none"> 与えられた条件に合った構成メモを作り、一文ごとに内容を確認しながら文章を書く指導を繰り返し行う。 外国語活動と関連付けることで、ローマ字を読んだり、書いたりする機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 作文の書き方を示し、参考にしながら書けるように指導する。 ローマ字表を教室に掲示し、読み方を意識付けさせる。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 区学力調査の結果は、平均正答率が約8割であり、おおむね学習内容は理解している。どの問題も目標値以上の正答率であった。昨年度との比較で正答率の低い問題は「絵地図の表された情報を読み取り、地域の様子を考察する事」で昨年よりも約2割正答率が低かった。正答率の高い問題は「今と昔の道具について、それぞれの役割や工夫を理解する」で9.6割の正答率であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 地図帳を開いて地名・方位など確認する活動を常時行う。また、学習した内容を絵地図にまとめるなど、分かったことを表現する活動を行う。 教科書や資料集に掲載されている地図やグラフなどの資料のうちから目的に合う資料を選び、その資料から読み取れる事柄をノートなどにまとめる活動を通して、資料活用能力を高める。 その時間に学んだことを振り返りで記述させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地図帳を用いて学習するときに、四方位を確認することを習慣付ける。 グラフや表の読み取りを丁寧に行い、数値等確認する。 目的に合う資料を選び、特徴を端的に表現させる。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ベーシック診断シート4月正答率80%以上の児童47% 平均正答率76% 1学期ワークテスト思考力をみる問題平均70点以上の児童84%、技能をみる問題88%、知識理解をみる問題96% 授業規律がよく身に付き、話をしっかり聞くことができる。発表、意見の交換もほぼ抵抗なくできる児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題に対しての意欲をもたせるために生活の中での算数を意識させたり、問題文を分析するための解法の手順を確実に身に付けさせたりする。 自分の解き方を説明する場面では、図や算数的用語など意識して使うように指導する。 自力解決を目指すためにヒントを提示する。 ペア、グループでの話し合いを取り入れ、自分と友達の考えを組み合わせたり、統合したりすることで問題解決をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年の学習では棒グラフ、表、乗法などの正答率が低いので、丁寧に読み取ることを指導する。また、ノートに筆算スペースをとって丁寧に筆算することを指導する。補充が必要な児童には復習問題を毎時行う。 発展コースの児童には、学習内容を適用させた問題文作りをさせ、解き合わせる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 区学力調査の結果は、平均正答率が約7.5割であり、おおむね学習内容を理解しているといえる。しかし、中でも正答率が低い問題は、「ホウセンカの花を咲かせた後には、実ができること」の理解で、6割の正答率だった。また、それ以外の問題については目標値以上の正答率であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験、観察、おもちゃ作りなどを計画的に行い、実感に基づく理解ができるようにする。 実験の結果から考察したことを全体の場で言葉で一般化し、知識として定着させるようにする。 児童の興味、関心を引く発問、課題の提示の仕方を工夫する。 その時間に学んだことについて振り返りで記述させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の中で科学的事象を多く取り上げ、児童の関心を高めるとともに、それらの事象を科学的に説明する機会を設ける。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素について、気付いたり感じ取ったりすることができるようになりつつある。 リコーダーの運指はほぼ定着しているが、音色の工夫やサミング奏法の工夫について、課題がある児童が多い。 音楽を聴いて感じたことを言葉にしてまとめる力にやや課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 体を動かす活動を通して音楽を知覚・感受する能力を育成する。 リコーダーのサミングの技能については、「サミングリレー」等の常時活動を通して定着させていく。 音楽を聴いて感じたことを言葉で交流する場を多く設定し、音楽を形づくっている要素と曲想との関わりについて確認する場を設定するようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> リコーダーの運指に課題がある児童については、個人練習の時間等に個別指導を充実させる。 児童が作品に興味をもつことができるよう、作品の時代背景や作曲者について紹介する場を設定する。
図工	<ul style="list-style-type: none"> テーマをもとに自分なりの思いをもったり、友達と関わりながら、表現したいことの発想を広げたりすることができる。 集中力を持続させることが難しく、表現をさらにより良くしようとする意欲をもつことができない児童が10%程度いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の活動や作品を見る途中鑑賞を取り入れることによって、より自分の表現への思いを深めることができるようにする。 のこぎりを使った木工作など、手ごたえのある素材や用具を取り入れることによって、児童が集中力や表現を追求する意欲をもつことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 早く活動が終わってしまった児童には、より高度な表現技法や難易度が上がる課題を提示して飽きずに活動に取り組むことができるようにする。

令和元年度 第4学年 授業改善推進プラン

文京区立駕籠町小学校

体 育	<ul style="list-style-type: none">・体を動かすこと好きで、走・跳の運動領域では、楽しく意欲的に取り組んでいる。・ボール運動領域では、友達と協力して学習に取り組むことができない場面がある。	<ul style="list-style-type: none">・筋持久力と柔軟性を向上させるような体づくり運動に取り組む。・班同士で動きのよさや工夫について話し合ったり、振り返ったりする活動を取り入れる。また、ルールを工夫し、協力していけるようにする。・器械運動では、めあてに向かって学習するために場の設定を工夫し、課題解決に向けた取り組みができるようにする。	<ul style="list-style-type: none">・器械運動では、補助具や着地、着手点の目印を使うなどの場の工夫を行う。
--------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------